

## 麻生区区民会議 第12回 若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会 議事要旨

1 開催日時：平成25年9月13日（金）午後6時00分～午後8時35分

2 開催場所：麻生区役所第3会議室

3 出席者：[専門部会委員]

石井委員、菅野委員、菅原委員、高橋（慶）委員、高橋（庸）委員、武濤委員、東川委員、矢野委員

（欠席）

金光委員、山田委員

[事務局]

鈴木企画課長、白石担当係長、藤江、桑原

[関係課]

児童家庭課 小金井課長、増田係長、飯島担当係長

こども支援室 [企画調整]野村担当課長、[保育所等支援]奈良担当課長

生涯学習支援課 猪瀬課長

4 傍聴者 なし

5 議 事

（1）調査審議課題等について

①「子育てしやすい環境づくり」

麻生区役所関係課からの事業説明

【説明事項】

※児童家庭課、こども支援室、生涯学習支援課より、資料1をもとに各課の取組み内容について説明があった。

1) 児童家庭課

- ・一時保育、ふれあい子育てサポート、家庭保育福祉員制度（保育ママ）、病後時保育、産後家庭支援ヘルパー派遣事業、ショートステイ事業、地域子育て交流広場

2) 子ども支援室

- ・子育て人材バンク事業、区内子育て支援施設・事業数
- ・おでかけマップの作成・配布などの情報発信

3) 生涯学習支援課

- ・子育てフリースペース「よち・わく・のび」、ボランティア養成・研修講座

【質疑応答】

Q1：児童家庭課と子ども支援室の棲み分けはどうなっているのか。

A1：児童家庭課には保育士、保健士、社会福祉職がおり、相談業務を一手に担っ

ている。公立小学校、私立保育園はこども支援室が所管となり、場合によっては連携をとっている。（児童家庭課）

Q2：（おでかけマップなどの）情報誌の配布はどのように行っているのか。

A1：母子手帳発行時、区内転入時、依頼があったときなどに配布している。（こども支援室）

Q3：子育てコンシェルジュ設置についてどう思うか。ニーズはあるか。

A3：各区の児童家庭課に保育士が配置されており、待機児童を持つ保護者に対して認可外の情報提供やアドバイス、子育てについての相談等に常時応じている。また、各保健師からの情報や健康診断より注意が必要な子についても把握・対応している。このため、子育てコンシェルジュの新規設置はせず現状の体制で対応していくと考えている。（児童家庭課）

Q4：「コンシェルジュ月間」についてどう思うか。

A4：月間を設置する、というより、児童家庭課の相談窓口は常設のため、そこに連絡いただきたいと考えている。（児童家庭課）

Q5：参考資料の「なかはらママカフェinいまい」について概要を説明して欲しい。

A5：経緯としては、企業（SUUMO住宅展示場武蔵小杉）の方から、区役所との協定で事業を行いたいとの申し出が中原区長にあり、子育て支援室を経てママカフェの運営につながった。来た方が自由に施設を使い、お母さん同士が交流する形。遊具はこども支援室で用意した。開催は毎月第3金曜で、運営は社会福祉協議会が担っている。社会福祉法人しいの実会がお茶・お菓子を販売している。（こども支援室）

Q6：市民館の拡大フリースペースも和室で行うのか？そうでない場合、敷物を敷くなど、安全な環境で開催しているのか？何組くらいの参加があるのか。

A6：大会議室の椅子を収納し、カーペットを敷いて開催する予定。おおよそ70組の参加を想定している。昨年度（11/22）は、75組156人の参加があった。通常のフリースペースは基本的にフリーだが、年1回の拡大フリースペースはイベントを実施する。（生涯学習支援課）

Q7：市民館のボランティア養成・研修講座受講者の成果や活動状況はどうなっているのか。情報発信はちらしのみか。区内地域間の（受講者数の）均衡は図っているのか。今後、受講者の「バンク化」など、活用方策について考えはあるか。

A7：H13年に、「ジャンケンポン」有志の人が民間事業として始めて広まった講座である。その後、市民館の職員が企画に入って広げてきた。

現在、ジャンケンポンは30数名で活動している。ボランティアの方に対しては積極的な指導はしておらず、自主的な活動を側面的に支援しており、今後もこの方向を目指している。（生涯学習支援課）

Q8：今後、ボランティア養成・研修講座を受講した人を人材バンク化し、地域の代表者がこれを把握していると身近に活用できるのではないか。是非活用するために研修の充実を計画的にできると良い。講座の企画は誰が行っている

のか。職員が3人しかいないと聞いているので、企画にも一般市民を巻き込むと良い。

A8：地域の人材育成については、以前の区民会議でも提言された内容だが、現在検討中である。研修しても活かすことが難しいという現状において、コーディネーターを配置し、地域に入ってもらう方法を検討している。（企画課）  
講座の企画は、職員がボランティアの意見を聞いたり、市民館同士が連携しながら情報収集の上行っている。（生涯学習支援課）

Q9：かわさき市政だより麻生区版9月号に掲載されている事業は、子育て支援室の企画なのか。

A9：イオン株式会社と川崎市総合企画局が提携を結ぶ、これを受けてイオン新百合ヶ丘店と麻生区が連携して始めた事業である。この7月に始まったばかりである。事業を企画したのは企画課であり、実際に担うのはこども支援室である。（企画課）

Q10：今の子ども支援サービスの需要と供給をどう見ているか。

A10：・今年、児童家庭課を設置したこともあり相談業務には力を入れている。いじめ問題など、相談ニーズはあり、力を入れなくてはならず、強化していく予定。（企画課）

- ・保育園は18箇所、1800人が定員であり、来年270名の定員増となるが、定員増となるとこれまで保育園入所を考えていなかった層が検討を始める可能性がある。いくらあっても充足が難しいのが現状。認可外保育園への補助も検討中である。（児童家庭課）

- ・児童虐待についてだが、児童家庭課では法律にもとづいた措置ができないため、児童相談所が対応するなど協働で進めている。「子どもが大きな声で泣いている」という市民による児童虐待の通報は増えてきている。子育ての大変さから、少しのことでも声を大にしてしかってしまう、という保護者の思いを実感として感じており、ひとつひとつ対応している（児童家庭課）

- ・子育て人材バンクはリピート利用があり、お金を払ってでも利用するニーズがある。一方、広報面では、民間のスーパーや、ボランティア側では大学生達にも周知しているが、隅々まで制度の周知が行き渡らない。幅広くたくさんの人に利用していただくことが課題。（こども支援室）

- ・日本映画大学との連携で、子どもたちに映画づくりの体験プログラムを提供している。こちらは大変多くの申し込みがあり、抽選で選定している状況。需要は大きい。3日間映画づくりを体験し、自分達で作った映画を最後見て、DVD化も行い、学校にも配布している。大学の負担もあってキャパはなかなか増やせないなので区全体に普及するにはどうしたら良いか。

こども支援室としては、子ども支援が充実し、健全な子どもの育成、親子の交流など子育ての（子育ての）土台が固まれば、子育て関連の相談は減る、という考えでやっている。（こども支援室）

Q11：子育てポケットはどこに配布しているのか。また、どう活用しているのか。

A11：もともと、職員の入れ替わりの激しい認可外保育所等の保育士向けに作成したが、保護者の方にも、子育て相談に応じて必要な箇所をルーズリーフでお渡ししていたところ、「冊子で欲しい」という要望があったため、冊子として3,000部発行した。希望者に漏れなく渡している。（こども支援室）

Q12：映画づくりのDVDの中身について教えて欲しい。

A12：映画および作成のメイキングを編集したものが入っている。メイキングは日本映画大学の方がボランティアで作成してくださっている。（こども支援室）

Q13：麻生区の虐待の状況について教えて欲しい。

A13：川崎市内で、最も虐待件数が少ないが、比率的には高くなっている。現在、虐待を受けている子どもは約100人～200人の間と考えられる。未就学児より、小学校～中学校くらいまでが多い。（児童家庭課）

意見：児童家庭課がこの7月に設置されたばかりとわかった。また、関連各課の棲み分けについてもわかったが、こうした情報を区民にもわかりやすく知ってもらえると良いのでは。

意見：資料1を見る限りでは、一通りの子育て支援は行われているようだが、どれも問題だらけであるのが実態である。たとえば、一時保育事業は、事前に登録し、預ける日時も伝えておく必要があるが、これは「いざというときに預けたい」というニーズとは違う。病後児保育も問題がある。もう少し研究が必要。また、現状、ボランティア講座の研修冊子は無いので、研修の中身の充実、研修冊子の内容検討、育成プログラムの提案なども考えられる。

意見：資料と説明から、（子育て支援に関して）かなり網が張られていると思う。実態として、こうした既存サービスの情報提供を充実させれば問題は解消するのか、あるいは新規事業、既存事業の補足が必要なのか（を見極める必要がある）。区役所と市民の協働という組織力強化も必要では。

意見：麻生区に新規設置される児童養護施設はいつ開所するのか。地域で注目を浴びている。当初、トラブルがあったが、当初100人定員のところを50人に減らした経緯がある。また、子育ての部屋の設置や子育て相談の場など、コミュニティの場を設置することで地域と合意されていると聞いている。

#### 【決定事項】

- ・ 麻生区役所関係課からの事業説明および質疑応答より浮き彫りとなった課題を提言に生かしていく。

#### （仮称）子育て支援フェスタの検討

※ 事務局より、資料2をもとに、（仮称）子育て支援フェスタの検討事項について説明があった。主な内容は以下の通り。

- ・ 日程候補：4/13(日)

- ・ 会場候補：区役所第1～7会議室、区役所ロビー、保健所予防接種ホール（市民館はアルテリッカとの調整により使用の可能性もある）
  - ・ 目的・対象：これまでの調査審議結果から把握した課題に対応する内容のなかでどれに対応するか。フェスタのメイン企画はどれにするか。
  - ・ 協力依頼団体等候補：麻生区社会福祉協議会、民生委員児童委員、子育て自主グループ、ボランティア団体等
  - ・ 一時保育の設置：保育ボランティア団体「ジャンケンポン」
- ※ コンサルより、資料3をもとに、子育てフェスタの他市事例紹介（さいたま市北区、川崎市宮前区、世田谷区）があった。

### 【決定事項】

- ・ （仮称）子育てフェスタは実施する（区民会議独自）。
- ・ 以下内容で、担当ワーキングチームはたたき台を作成する。  
 日時（案）：平成26年4月13日（日）10:00～15:00（※食事はあった方がよい）  
 会場（案）：候補地見取り図等詳細を確認  
 内容（案）：①情報提供（団体紹介）  
                   ②相談（教育、健康）  
                   ③お母さん同士の意見交換（意見を吸い上げる場）  
                   ④楽しい広場（遊ばせる、カフェ）  
                   ⑤預かり場所、授乳場所
- ・ コンセプトは、「楽しい」「安心」「助かる」とする。
- ・ まず内容を固めてから、協力団体への打診を行う。
- ・ 今後、以下の3つのワーキングチームにて詳細検討を行う。

	石井 委員	金光 委員	菅野 委員	菅原 委員	高橋 (慶) 委員	高橋 (庸) 委員	武濤 委員	東川 委員	矢野 委員	山田 委員
■ワーキングチーム①: (仮称)子育てフェスタ (計6名)	●		●	●	●	◎			●	
■ワーキングチーム②: 子育てに関する提言 (計6名)	●	●	●	●				●		◎
■ワーキングチーム③: 芸術文化に関する提言 (計4名)	●			●			◎	●		

## ②「芸術・文化のまちづくり」

### 【説明事項】

※事務局より、資料4をもとに、市民文化室への意見（案）の説明があった。

### 【決定事項】

- ・ 案の通り市民文化室へ意見を提出する。

### (3) その他

- ・ワーキングチーム①は、9月30日（月）13:30～ミーティングを開催。それ以外のワーキングチームについては、メールで日程調整を行う。
- ・次回10/21（月）部会では、ワーキングチーム①は（仮称）子育てフェスタの開催概要の提示、ワーキングチーム②③は、提言の頭出しを行う。

以上